

『ねじ子の ぐっとくる体のみかた』 単に見方を教えるだけで なく、どのように 対処すべきかも描き出す

著：森皆ねじ子／定価：1,680 円(本体 1,600 円＋税 5%)
発行：医学書院／TEL：03-3817-5657



「五感を研ぎ澄ませ!!」がキャッチフレーズのこの本。看護師をしていた大学院生が、病棟勤務で新人のときに森皆ねじ子さんのシリーズを愛読していたという話をたまたま聞き、どのような内容なのだろうという思いで、この本を手に取りました。

■相手に正しく伝えるという本質を追求

この本は、マニュアル本のようにフィジカルイグザミネーションの方法を記しているのではありません。マニュアル本の多くは、「その方法」を説明していますが、この本には「その方法の流れ」があります。相手にわかる(伝わる)イラストの描き方までも指南されており、読み手(若き学徒)の立場をよく理解して書いてくださっています。さらに、心臓の雑音や呼吸音は、なかなかポイントが伝えにくく、「経験すればわかるようになるから」とよく言ってしまう項目なのですが、このようなイラスト(グラフなど)で耳に聞こえる音も表現してあれば、抽象度が高まり、理解できる部分が増えます。あくまでも相手に正しい情報が伝わればよい(伝わらなければならない)という本質がきちんと押さえられているわけです。

学生に「肺は肩のどこのあたりまでありますか」と質問すると、多くが「肺尖部は鎖骨あたりまでです」と答えます。そこで、「もしそれが正しいなら、鎖骨から上の部分には何がありますか」とさ

らに問うと、答えに窮します。これは、知識が知識として身につけていないことを示す笑い話のようなものです。この本を参考にすれば、みて、きいて、さわって、自分の体に置き換えて身体の見方を学べるでしょう。言い換えると、この本は、解剖学での肺と自分の体にある肺との乖離を埋めることの手助けをしてくれるのです。さらに、解剖学書とは違い、その用語の歴史や関連する事項まで、内容はバラエティに富んでおり、何気ない表現のなかに著者の造詣の深さを感じます。

■五感で患者さんの不安な気持ちを

キャッチする

さらに、単に見方を教えているだけでなく、患者さんの不安な気持ちを具体的な言葉として表現し、どのように対処すべきかを細やかに描き出しています。著者の優しさが随所に伝わり、看護学生や新人看護師は、単に処置の仕方や見方をこの本から学ぶだけでなく、小さい文字にもしっかり目をやり、心で読んでほしいと思いました。

看護学生の副読本にもぜひおすすめと言いたところですが、言葉づかいが少し気になりました。もっとも、若い人には、このようなアプローチが、とっつきやすいのかもしれないので、常識をふまえての行動ができる学生ならば、心配はありません。